

# STEP-UP

令和4年度

支援活動特別号 3月

大田区立幼児教育センター

幼児教育担当 TEL(5744)1618

様々な園で幼児教育を受けた子どもたちが各学校に入学してきます。子どもたちは、新たに始まる小学校生活への喜びと期待でいっぱいです。一方で、幼児教育から小学校教育への移行の際、環境の変化に戸惑いやギャップを感じ、不安になる姿も見られます。幼児教育センターでは、就学前から小学校へ円滑な接続と学びの連続を支える支援をしています。

3月中旬に小学校に募集をかけ、決定した学校へ次年度の支援校通知を出し、4月より支援活動を始めます。

## ❖ 幼児教育センターの支援活動とは ❖

### 【小学校支援活動の目的】

- ・幼児教育センターの所員が、保育士及び幼稚園教諭として就学前教育に携わっていた経験を生かし、小学校での生活・学習の支援を行いながら、保幼小の円滑な接続と学びの連続性に関する考察を進める。
- ・保幼小の交流活動の計画・準備・実践の場に触れることで、円滑な交流活動の進め方について考察を行い、交流促進の啓発を図る。
- ・夏期に行われる保幼小連携合同研修会で、1学期の支援活動状況及び考察内容を報告する。

### 【幼児教育センター所員の小学校支援活動内容】

- ・活動拠点校 7校（令和4年度）
- ・訪問日程 1校あたり週1日の支援を実施。

### 【1年生の学校生活の支援】

- 支援例として着替え・トイレ・給食・発育測定健診時・給食の支援。
- 小学校生活になじめない児童の実態把握及び支援。
- 保育園児・幼稚園児との交流活動を実施する際の支援。
- 読み聞かせ、集団遊び、学校近隣の校外学習の引率。

### 【支援活動の時間】

- 1・2学期  
8時30分～下校時、
- 3学期  
8時30分～4時限目まで



## ❖ 学校生活の様子を見て感じたこと ❖

### 【入学当初に見られていた子どもの姿】

- ・先生の話最後まで聞かない、聞いていない姿が見られていました。家庭や園で話しの内容を理解しているかどうかを確認していくと、学校の学習が深まります。
  - ・座って靴の履き替えをすると、下駄箱の前が混雑していました。立って履くことを知らせていくと良いです。
  - ・男児はズボンを下ろしお尻が出てしまうと、友達から指摘され恥ずかしい思いをするので、立便器の立ち方、ズボンのおろし方を意識して知らせていくと良いです。
  - ・自分の持ち物が分からない、落とし物が出ても自分の物か分からないといった姿が見られていました。保護者と一緒に次の日の準備をすることで、自分の持ち物をきちんと管理ができると思います。
- ※就学前の園生活でもやってきているとは思いますが、環境が変わるとこのような姿が見られているので習慣になると良いです。

### 【小学校の工夫】

- ・学校によってはチャイムを鳴らさない所もありますが、1時限45分通しの授業ではなく、10～15分に区切って手遊びやお話、課題、水飲み、トイレの時間を組み入れ、集中時間を徐々に伸ばしていました。
- ・1日の流れが分かるように、時間割や朝や帰りの支度など必要なことを表示して可視化していました。
- ・担任のほかに支援の方やサポートルームの先生が授業に入り、支援の必要な子どもに寄り添っていました。
- ・担任の先生は子どもたちが下校するまで教室で一緒に過ごしていました。その中で学校生活に必要な約束をその都度知らせています。子どもたちは先生との信頼関係ができると、自分の教室・クラスが安心できる場所であると理解して、楽しく学校生活を送ることができます。

### 授業風景

ハイ  
〇〇です。



これはどう  
ですか？



はい！

10の位が  
1, 2, 3・・・



算数の問題を  
解いています。